

●湘北短期大学

短大1年生全員を対象とした 就職ガイダンスにおける RCC就職レディネス・チェックの 実施時の解説について

(抄録)

事務局(前・キャリアサポート部部长)
近藤章雄氏



湘北短大では1200~1300人のマスのガイダンスで実施しました。いろいろな形でやり方はあると思いますが、きつかけ作りとして非常に有効であると思っています。

RCCというのは、実施は10~15分です。問題は、やりっ放しにしないということですよ。解説をどうしているかということが非常に重要ではないか、と考えました。

学生は最初、何だかわけがわからないで来ます。ざわざわしていますので、「これはテストですよ」と最初ちょっと脅かしをして、「真剣にやろうね」「自分の人生、もしかしたら変わるかもしれないよ」「手抜きはナシ」というふうに言っただけで、で、ちょっと治まったところで、「やっぱり就活って、コミュニケーション能力だ」とか聞いているかもしれないけど、私が思うには、『素直さ』じゃないかな。言われたことに対して『え、それ、私がやるの?』って言う人採用される? まず言われたことをやってみようよ、そこから始めようね」という心の構えを最初に言っておきます。素直さ。

皆さん、ちょっと立っていただけますか。協力していただきたいのですが、「素直さ」を。

ここにもすごい大きな坂が目の前にある。そこに丸太がころがってくるんですね。そうすると、そのままだと怪我をしますから、飛ばなければいけない、と仮定をします。協力してください。

私が丸太になります。「丸太が来た



立ち上がり、丸太を飛び越える準備...

ぞ〜」ところがつてきますので、素直な気持ちで怪我をしないように、自分の身をどう守るか、それは飛ばしかなので、飛んでいただく。いいですか。「丸太が来たぞ〜」「丸太が戻ってきたぞ〜」「ころころころころ...」

お座りください。こんな形でやります。学生の場合、もう少し時間かけないと素直にやらないんですけれども。まず気持ちを素直にもっていくということから話を始めていきます。

学生は何から始めたらいいのかわからないし、自分は何の仕事に向いているのかわからない。「つぶれない会社に入りたいたいんです」「楽しい仕事がないんです」というようなことを言う。でも社会は厳しくて、採用側は、学力、適性、人柄、社会性、やる気、実行力、意思の強さ、積極的態度、コミュニケーション能力(伝える力、聴く力、論理性)を求めている。学生が思っている就活とギャップがあるんだと思います。

そんなことに気づいてもらうため

に、RCCは四つの側面から見えていきます。プラス「思い込み」を入れて、全部で五つになります。「こういう内容になっています」と丁寧に説明を最初にします。そしてこのチェックリストは、いい悪いを判定するものではなく、就活の準備度を測るものだから成績表とは違います。活動の取り組み方を考える「きつかけ」にするんだよ、と伝えるところがポイントになります。決して評価するものではありません。

じゃ、RCCって何かというと、「どこがわかっていて、どこがわかっていないのか」を探るもの。学生はやりたいこととできること、二つに分かれるんですけども、非常に自信過剰の学生も、逆に実際の能力よりも自信の低い学生もいます。やりたいこととできることとのギャップというものを、うまくこのRCCを使って埋めていく、気づかせていくということが重要だと思っています。

A 就職意欲度

就職意欲度のところで素晴らしいのは、第1問で「働くことの魅力は何か」(働くことに魅力を感じている)と聞いている。「働く」というのは、どんなこと?」じゃないんです。魅力なんです。この第1問からすぐ話に入れる。あなたにとっての「働く魅力」ですよ。「仕事とは何か」と、学問的なこと聞いているのではない。「働く魅力って何だろう」と問いかけると、話に入りやすい。

でも、25問めのところでは、「なぜ

働くのか」と聞かれるので、目的や意味について自分なりに考えがまとまっていると、言葉として答えが出てくるんですがね。「働くとは」と学生に聞くと「それは生活するためですよ」と返ってくる。確かに正しいですよ。また他の学生は「経済的自立です」と。そのとおりなんですが、「それって（マズローの欲求5段階説で言う）基本的欲求じゃないの？」と問いかける。正解かどうか、正しいかどうかということではなくて、もう少し掘り下げてみる必要がないだろうか、と。

B キャリアプラン設計度

学生の会社選びというのは、どちらかというとも知ってる会社を選ぶんですよね。人に伝える時に、「あ、それ知ってる」と言われる会社。知らない会社はあまり選ばない。そして、「この会社はこういう会社」と説明できる会社を選ぶ傾向があります。そこには、安定化志向もあると思います。じゃあ、条件を下げれば内定は取れるだろうか、確率や可能性は上がるだろうか、しかし、人生設計は確率や倍率ではないということくらいは学生はわかっている。ならば、考えなければいけないことは何なんだろうか、決めなければいけないことは何か、「人生のハンドルは自分で握ること」「柔軟な考えをもち、決めつけないこと」だね。こういうところからどんどん投げかけをしていきます。そして、「やりたいこと」と「できること」。単なるあそこをステップアップしていくた

めの人生設計、キャリアプランというのは非常に重要になってくる。

C 環境理解度

学生は、ニユースは結構見てたり、わかっているつもりなんです。でも、きちんと理解していて、話せるか。また、例えば「ブライダルに関わりたい。人の幸せの門出の現場に携わりたい」と望んでも、少子高齢社会ですから憧れだけでは職に就くことはできません。結婚式場を経営しているのが、実は葬儀屋さんだったりすることも珍しくはない。世の中を客観的に見れば、亡くなればみんな坊さん呼んで葬式をやるでしょ。だから、街中にセレモニーホールがたくさんできた。結婚式は今、地味婚じゃないですか。世の中の環境を考えることは、職業を選ぶときにはとても大切なことです。

D 就職活動理解度

就活ってどんなこと？ テクニクで就活がクリアできればいいですよ。そうではないですよ。単純に外見からは見えないもの、志望動機、やる気、実行力。ここがマニュアルになっているから、エントリーシートが面白くない。そこに気がつければ、自分の内面の表現を工夫することができる、ESの書きぶりも変わってくるんじゃないのかな、というような投げかけをしています。

学生がアルバイトでできることは限られている。でも、社会人の仕事は世の中を変える可能性がある。世界の

人々の生活を、文化を変えるかもしれない、あなたの考えが世界標準になる日が来るかもしれない、これが採用側の期待です。だから、答えではなく、あなたの考えを述べること。
まあ、いろいろあるけど、前向いてポジティブに頑張ってくださいよ、われわれは応援しますよ、と。

質疑応答

質問 私も短大の教員なんですけれども、マスで120〜130人くらいで実施された後のシェアなどを、どのようにしていたかを教えていただきたいのですが。

近藤 ガイダンス終わった時に、声かけですね。会場でやりとりしていた時に、気になることを言ったり気になるそぶりをしたりする子、下向いて関心を示さない子などに意識して声をかけますし、人数の多い時には、例えば読ませるところを当てておきます。いきなり当てると、なんか自分だけ被害者みたいに思うので、「当てるよ、ここだよ」とガイダンスの前に言っておくんですね。そうすると素直にすっと入っていくし、知らない人は知らないの「あの子、結構ちゃんと読んでるじゃん」とかって。いきなりやるのではなくて、仕組んでいく。今回は90分完結、マスのガイダンスだったので、グループでのシェアというのはしていません。

質問 実施時期についてですが、短大に入学されて1年生の時からこれをやるとなると、「就職サイト」「業界」「自己分析」などという言葉がある程度ガ

イダンスを進めた段階でないと、ちょっと難しいのかなと思ってしまふのですが、どの時期に、どのあたりまでやった段階でやるか、最初にある程度の単語の説明をしてから取り組むのか、そのあたりを教えてくださいませんか。

近藤 ステップ・バイ・ステップでいければもちろんいいんですけども、今回はこのRCCの試行テストのお話があり、10月のガイダンスの中に組み込んだのが実態です。

短大は2年しかないですが、1年の前期にやるのはちょっとどうかと思います。夏休み、9月の後期が始まる前に、グループでのワークショップを終日でやるんです。アサーションのよくな人間関係の体験学習をメインに。まずそこをやって、座学のガイダンスに入っていくのに活かしていく。言葉についてはわからなければわからないなりに、みんなに聞いたり、話のやりとりの中で共通の理解をさせていくような形でやっています。

渡辺 本日に学生さんというのはいろいろですので、まず自分の大学の学生の特徴をきちんと（といっても全部をきちんとは無理でも）把握して、その特徴を反映した使い方から入っていくということでしょうけれども。「うちの学生にとって社会に出るためには何が一番必要か」というところのコンセンサスを得る話し合い、意見交換を関係者の中でしておいて、「では、難しい言葉は解説しとこうか」と、前もって説明しても構わないのではないかと思います。